

姫だるま

竹田市を訪れると、商店や飲食店、さらには豊後竹田駅構内でも、優しく微笑む紅白のだるまが目にとまるはずだ。この「姫だるま」は竹田独特のもので、町の文化の一部となっている。縁起物とされるだるまは日本全国にあるが、そのほとんどが男性であるのに対し、姫だるまは女性だ。その歴史は江戸時代（1603-1867）にさかのぼり、新年を祝うために家に投げ込まれる伝統的なものだった。

姫だるまは台座が丸く重みがあるため押し倒すことができず、叩いてもすぐに元に戻る。そのため、かつては「起き上がり」とも呼ばれ、家に投げ込まれた際には「起き上がり」と叫ばれた。姫だるまは失敗しても必ず立ち直れるという信念の象徴であり、家庭円満や商売繁盛の象徴でもあった。

姫だるまの伝統は 1900 年代前半に廃れたが、1950 年代に竹田市の後藤恒人によって復活した。後藤は、この「諦めない」だるまが日本の戦後復興の象徴としてぴったりだと考えた。現在、姫だるまは竹田市在住の後藤家によりオーダーメイドで作られている。新事業の成功を祈願して贈られることが多い。